



通巻 129 号
安曇野市豊科郷土博物館友の会
令和 5 年 1 2 月 1 0 日 発行

博物館友の会会報

「何を、どう見て、どう考えるか」

友の会副会長 志村 昌之

タカラさがし部では今年も様々な活動が行われています。「古墳は穴がたくさん。大きくて深くてびっくり！ 小さいけど土器のかけらも見つけたよ！」「庚申塔や馬頭観音像に託された願いや思いがわかった」など、驚きや納得の姿や声があり、うれしく思います。さらに、「どうしてここにラウンドアバウト？」「かけらは壺かな？ 何に使ったのかな？ 調べてみたい」など、疑問を持ったり調べたいことが出てきたりして、大事にしていきたいことだと思います。

以前在籍した学校で、山の湧き水を利用した棚田での米作りを学習した時のことです。この棚田で収穫したお米を食べて、その想像をはるかに超えるおいしさを感じていた子どもたちが、棚田の様子を撮影した映像を見ました。「えっ、こんな山の田んぼ？」「山だから水がきれい」「湧き水！ 冷たくて甘くておいしい」「山の栄養がある水」「だから、お米がおいしいんだよ」など、この湧き水に注目して話が広がっていききました。そんな時、「でも、冷たいとお米作りには合わないんじゃないの？」「『お米作りには 11℃～12℃以下でないといけない』って農協の人が言った」など、疑問が投げかけられました。棚田の水温が 30℃程度に対して、湧き水は 10℃ほど。その差 20℃に子どもたちは落ち着いていられません。「水はどうやって温まるの？」と、考えたくなります。見に行きたくなります。実際の見学で、湧き水と棚田の間にゴムを張った貯水池や田んぼに流れ込むまでの長い水路など、水温を上げる工夫を目の当たりにして、農家の努力がおいしいお米につながっていることを実感していました。「どうやってこんなに長い水路を掘ったの？」と、質問したり、「透明のビニールでおおって管みたいにするば(水温は)もっと上がると思う」と、提案したりする子もいました。

問題意識や興味関心に支えられて確かな事実に触れることで、物事を捉える力、考える力が育っていきます。今後の活動でも、一人一人が、「何を、どう見て、どう考えるか」といった自分なりの視点を大事にしている、より楽しく充実したものの学びの場につながっていくことを期待したいと思います。



「移ろう季節の小さな発見 in 博物館」

博物館職員 二木 典子

友の会の皆様。

年二回の博物館美化活動にご協力いただきありがとうございます。職員だけでは普段手の回らない所をお助けいただき、職員として感謝申し上げます。皆様に綺麗にさせていただいている博物館の周辺のことに触れさせていただけます。

春。博物館北裏のコシノヒガン、例年は 4 月上旬に開花するのですが、今年は半月も早く 3 月 23 日に開花。翌週に満開を迎えました。

桜の花だよりも聞かれる頃になると、館の前庭の花々も順繰りに咲き始めます。目立ちませんが西日本が主な生育地のシロバナタンポポもその一つです。

6 月の半ば。梅雨時の鬱陶しさを爽やかにしてくれるのは南端にあるヒメジャラの花。ナツツバキよりも一回り小ぶりな花で地面への落花で開花に気づきました。

暑い夏の終わりには、あちこちに植えられているフジバカマに、渡りの途中のアサギマダラが立ち寄って吸蜜して行くこともありました。ここ数年、姿を見ていませんが…。

秋の訪れは西側のキンモクセイの香りから。公民館との境にあるキハダとエノキの葉が黄色く色づくころには、その実をついばみにイカルが群れでやってきたりします。

博物館に足を運ばれたら、周りの樹木や足元の花にちょっと目を向けて季節の移ろいを感じる時間を持つのも、時にはいいかもしれませんね。



友の会活動

「書道部の活動」

部長 千野 秀濤

書道部は、昭和 53 年郷土博物館開館に伴い友の会が発足し、会員 36 名で第 1 回展を開催いたしました。以来会員も年々増加し、15 年後の「第 30 回記念書芸展」<楷書の書風展>には 75 名と最も多くなり盛大に実施されました。



この間、様々な工夫を凝らして「見るとともに参加する博物館」の理念のもとに活動してまいりました。

平成・令和と時を経て、令和 5 年度新春書芸展で第 69 回展となります。これだけ長い歳月活動し続けてこられたことは、博物館の方々のご支援の賜物でありまして、感謝申し上げますとともに書道部の結束力と思っております。

副部長 隼田 和子

友の会書道部は、郷土博物館 2 階の学習室での書の学習・作品制作をさせていただいた時もありましたが、2016 年(平成 28 年)に豊科公民館耐震・改修工事が終わり、高齢の仲間が多くなる中、書道用具を持ってエレベーターで 2 回に行けるということで、以来学習会場は豊科公民館にしております。郷土博物館学習室で個々広々と大きな用紙を広げて作品制作に取り組めたことが良かったと残念に思う方もいましたが仕方ありませんでした。

40～80 歳代 15 名の会員は、基本月 4 回のお稽古日では毎月半紙 2 枚・半切(1/2)1 枚を学び白蛾会に提出して評価して頂いています。千野秀濤先生はお手本の出典の解説や作品としての仕上げ方を指導下さっています。

年間スケジュールは、毎月の清書提出・郷博新春展・地域文化祭・県展・全国展等々、それぞれに作品を出品しています。

「書に取り組んでいるときは時間を忘れる」との仲間の言葉は、好きな事を追求・向上しようとする全部員の気持ちと思い、今後も和気あいあいと活動してゆきたいと思っております。個々の取り組みを受け入れて指導していただけますので、見学にお出かけ下さい。

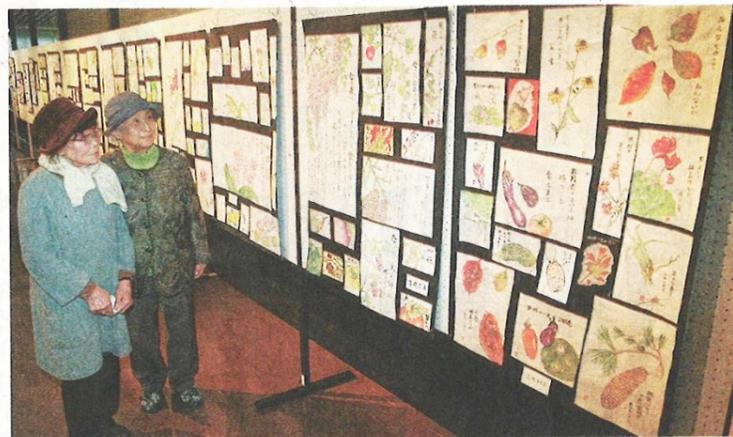


第20回絵手紙展

安曇野
友の会の絵手紙部の作品展が、同館で開かれている。26日まで。
絵手紙部は安曇野市を中心に、男性1人を含む21人が活動。月2回、同館に集い、創作を楽しんでいる。

花、野菜…絵手紙ずらり500点

豊科郷土博物館 友の会の21人が作品展



シクラメン、柿、藤の花…季節の風物を題材にした個性豊かな絵手紙を紹介する高橋さん(左)＝安曇野市豊科郷土博物館で

毎年4月はみんながそろってピーマンを描き、初心に返るのが習わしだ。作品展は20回目。メンバーが共通画題の松ぼっくりをはじめ、四季折々の草花や果物、野菜などの絵を描き、含蓄ある言葉や情趣あふれる句、文章を添えた絵手紙

計500点を展示した。この中には、彫刻家であり詩人の高村光太郎と妻で洋画家の智恵子が安曇野を詠んだ短歌に絵を添えた短冊、おめでたい七福神の絵と一緒にさまざまな字体の「福」の字を100個つづつた半紙の作品もある。古希で絵手紙を始めた部長の高橋久子さん(86)＝豊科＝は、亡き夫が入院時、「花が咲いたよ」など留守宅での日々の暮らしの様子を日記調の絵手紙にし、病床に260通送ったことを思い出す。今も、愛好者同士の文通、友人らへの礼状に絵手紙を欠かさない。その魅力を「相手への感謝の気持ちと言葉だけでなく、絵でも伝えられ、それが心に残るのが魅力かねえ」と話していた。要入館料。月曜と、祝日の翌日は休館。同館☎0263(72)5672 (逢沢哲明)

【中日新聞 2023.11.18 よろ】



令和5年度 今後の博物館講座・展覧会の予定

こたつ講座予定

日時	時間	演題	講師	場所	申し込み
12月9日(土)	10:30 ～11:30	信州の植物学の系譜 ～「らんまん」の時代の人々～	松田貴子	博物館 学習室	定員各回 30人 それぞれ 10日前の9:00～ 博物館へ(第3回のみ 8日前から) TEL 0263-72-5672
12月16日(土)		イエジマイ・ハカジマイ	倉石あつ子		
1月13日(土)		「叛逆」の武将?仁科道外 ～戦国大名武田氏の 安曇郡侵攻を軸として～	逸見大悟		
1月20日(土)		「食べる」から見る家族のかたち	宮本尚子		
2月3日(土)		空家今昔物語～空家の問題を紐解く～	幅 拓哉		
2月10日(土)		「ハイトリック」ってなあに? えっ、自動糞糞器!?	窪田尚幸		
2月17日(土)		絵地図から満願寺、 そして牧村の謎に迫る	原 明芳		

令和5年度春季企画展

はくせい動物園 ～となりあって生きている野生動物たち～

会期：令和6年2月24日(土)～5月12日(日)

野生動物、彼らは実は私たちの暮らしのすぐ近くで空間を共にしながら、食べ物を得て子どもを育てて暮らしている。山奥の動物たちも人との関わりの中で生きている。住宅地から山奥までの動物たちを取り上げて、その生態や人間との関わりを剥製(はくせい)を主な展示資料として紹介します。博物館が「はくせい動物園」に変身します。特に、小中学生の皆さんも楽しめる企画展です。ご期待ください。

<関連イベント>

- ◆観察会 ◆講座 ◆ワークショップ

*内容・日時など詳細は、2月21日(水)発行の広報または企画展チラシにてご確認ください。



フクロウ (丸山隆さん撮影)

今後の友の会展覧会予定

令和6年1月13日(土)～1月28日(日)

第69回新春書芸展

新春を祝う作品が展示されます。
千野秀濤先生のギャラリートーク
1月18日(木)午後1時30分から

第9回戦時生活展 丹念に調査した成果が展示されます。

- 「戦争体験者の話を聞く会」
- ①一志 豊さん「戦争一色の南農生の生活。そして戦後～」
1月14日(日) 13:30～15:00 豊科公民館大会議室
 - ②高山美鈴さん「戦争末期、満州での航空兵の訓練の実態」
1月21日(日) 10:00～11:30 豊科郷土博物館学習室